

おうみネット

おうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人を結ぶ♥ 作 杉尾尚子

ネットストーリー

“NPOの先駆性”編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～<第9回>

NPOとネットワーク

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

関西電力株式会社滋賀支店
クラシック音楽の振興、森林保全、青少年の育成など、
21世紀の豊かな湖国を応援していきたい。

おうみネット リレーエッセイ

トピックス

NPOの先駆性について

スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- NPO法人子育てサポートおうみはちまんすくすく
- ADHD支援グループ「クローバー」
- 柳川を愛する会

伝言板 9月・10月

センターインフォメーション

わくわく市民活動ゼミナール
第4回おうみ市民活動屋台村
～友遊体験～
ほか

September

No. 31

2002・9

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第9回 NPOとネットワーク

IT革命を持ち出すまでもなく、現代はネットワーク社会と言われているし、このネットワークという言葉もごく普通に使われる。ネットワークはもともとは網状組織と訳され、放送網、通信網、鉄道網などの社会基盤を表すものとして使われてきた。今でもネットワークというと、通信や情報と結びついて使われることも多いが、もう一つ「人と人とのつながり」という意味で使われる。市民活動、NPOの中で使われるのも実はこの意味が多い。

企業や行政を見れば分かるとおり、既存のこうした組織は、ピラミッド型になっていて、トップダウンにしる、ボトムアップにしる、その意思決定システムは縦型の構造である。これに対し、NPOはネットワーク型の組織だとよく言われる。組織としての意思決定システムはあるものの、その形は縦型の人間関係ではなく、個々の人間が対等につながっているまさに新しい形態なのである。仕事、年齢、性別などに関わらず、自由につながり活動するNPOの姿は、とかく型にはめて考えることの得意な日本人には異文化といえるかもしれない。

会社をリタイアして、NPOで働いたり、ボランティアをしたりしたいという熟年層が増えている。しかし、企業の枠組みの中でずっと生活を続けると、その文化に慣れてしまって、異質なものを受け入れることに抵抗感を持つ人が多いのも事実である。肩書きをなくした人が、いかに対等の関係でコミュニケーションをとりながら、ネットワークを築いていくのかは、会社という組織とNPOという組織の根源的な問題なのかもしれない。

NPO側に限って言えば、その組織内で人々がいきいきと活動し、その活動の幅を広げ、質を高めていくには、個々のネットワークをいかに築いていくかが重要である。これはNPO同士のネットワーク構築にも言えることで、団体同士のネットワークもつまるところ、個々のネットワークの積み重ねなのである。

(市民熱人)

めとてとねこと

市民と企業の行政ねこと

クラシック音楽の振興、森林保全、青少年の育成など、21世紀の豊かな湖国を応援していきたい。

関西電力株式会社滋賀支店



広報担当 谷口英樹さん

私たちの暮らしになくなくてはならない電気。そもそも、湖国の電気事始めは明治30年(1897年)のこと。関西電力(株)の前身である京都電燈大津支社が設立され、大津市で初めて電灯400灯が灯ったとか。以来100有余年、関西電力滋賀支店では、電力の安定供給を図ると共に、地域に根ざした企業としてさまざまな分野の活動に取り組んでいます。

今年9年目を迎える「かんでんふれあいコンサート」は、平成6年度より滋賀の新進演奏家たちに発表の場を提供するとともに、県民にクラシック音楽に触れてもらおうとの思いで企画。たくさんのお応募者の中からオーディションによって選ばれた演奏家が、毎年県内各地の音楽ホールで腕前を披露しています。また、6月の環境月間には社員一人一本を目標に、今年は1450本の苗木を子どもたちと一緒に植樹したほか、県内22漁協と協力し、5年計画(平成11年〜15年度)で「稚魚の放流とエネルギー学習」の場を提供。さらに、循環型社会を生活しべ

ルで見直そうと、毎年ガレージセールを開催。今年は10月20日に愛知川町で予定しています。

昨年、関西電力では、風力&太陽光発電等クリーンエネルギーの普及をめざした【関西電力グリーン基金】を開始。私たち電力需要者から毎月1000円まで寄付金を募り、関西電力が同額の寄付金をプラスする基金をつくっています。その基金によって昨年は滋賀県立彦根工業高等学校に、太陽光発電が設置され、20kWの太陽光エネルギーが生み出されています。また、今年は水口町立伴合東小学校に設置される予定です。

地域とのコミュニケーションを大切にしながら、21世紀の豊かな暮らしを応援する関西電力滋賀支店の地道な活動は、芸術文化・環境・教育などさまざまな分野で大きなエネルギーとなることでしよう。

今年9年目を迎える「かんでんふれあいコンサート」は、平成6年度より滋賀の新進演奏家たちに発表の場を提供するとともに、県民にクラシック音楽に触れてもらおうとの思いで企画。たくさんのお応募者の中からオーディションによって選ばれた演奏家が、毎年県内各地の音楽ホールで腕前を披露しています。また、6月の環境月間には社員一人一本を目標に、今年は1450本の苗木を子どもたちと一緒に植樹したほか、県内22漁協と協力し、5年計画(平成11年〜15年度)で「稚魚の放流とエネルギー学習」の場を提供。さらに、循環型社会を生活しべ



県内3営業所と地域の子どもたちが協力して植樹。



今年12月に野洲文化ホール、来年3月に忍の里プララでふれあいコンサートを予定。

今年9年目を迎える「かんでんふれあいコンサート」は、平成6年度より滋賀の新進演奏家たちに発表の場を提供するとともに、県民にクラシック音楽に触れてもらおうとの思いで企画。たくさんのお応募者の中からオーディションによって選ばれた演奏家が、毎年県内各地の音楽ホールで腕前を披露しています。また、6月の環境月間には社員一人一本を目標に、今年は1450本の苗木を子どもたちと一緒に植樹したほか、県内22漁協と協力し、5年計画(平成11年〜15年度)で「稚魚の放流とエネルギー学習」の場を提供。さらに、循環型社会を生活しべ



県内各地の小学校が「稚魚の放流とエネルギーの学習」に参加。

関西電力滋賀支店

TEL.077-532-0072 FAX.077-527-5809 <http://www.kepco.co.jp/siga>

「素敵な出会い」

心をむすんで* リレーエッセイ



しなやかシニアの会

佐藤 明子さん

次回は若葉こども文庫の原幸代さんです。

日本人の平均寿命が、男女とも世界最高を更新中と発表された。何事により、世界一はすばらしいことだ。人は誰でも一年に一つ年を取る。変わり得ない自然法則で、これほど平等なことはない。しかし長寿と同時に高齢期をいかに過ごすかという問題が浮上して来る。多くの人が「死ぬまで元気で生きたい」という矛盾した理想を抱いている。

私たちの会は、自立した高齢者として積極的に楽しく充実したシニアライフを送ることを目指して活動を始めた。福井県のドラゴンリバー交流会のリーダーは95歳の女性である。九頭竜川の浄化のためにトングリの苗を植え続けている。その飽くなきエネルギーと、「最近太り気味で洋服が・・・」とおしゃれ心を失わない姿はとても魅力的。活動を通して得ることができた素敵な出会いである。

「理論があつて活動ではなく、先に活動があつて次に理論」

「若い人が積極的にかかわる『ビジュアル系』NPO」

NPO活動を定義するとき、その活動の『先駆性』がとりあげられます。でも、その『先駆性』故に、活動の目指すところが見えにくく、その結果、共感が得られにくいということもありません。

今回のおつみネットでは、若い人が中心となって活動しているNPO法人環境共生都市推進協会（京都市）を取り上げ、若い人がどうすれば積極的に活動に参加してくれるようになるのか考えてみました。

インタビュー／川勝六四（淡海ネットワークセンター事務局）

京都市の中心地烏丸御池。旧電電公社の建物を利用したおしゃれなファッションビル「新風館」の中庭に、流線型をした見慣れない乗り物が並べてあります。そこは自転車タクシー「Velo Taxi」のステーションです。「Velo」とは、ドイツ語で「自転車」の意味で、NPO法人環境共生都市推進協会がドイツから輸入し、この5月から運営しています。活動を始めてから、様々なメディアに取り上げられ、注目されているこのユニークな自転車タクシーについて、同協会の細尾友子さんにお話を伺いました。

Q 自転車タクシーをしようと思ったきっかけはなんですか？

細尾 仕事でお給料をもらって、それで遊びに行って、貯金して……というだけじゃなくて、付加価値として何か自分に残るもの、人に対して何かできることがあ

れば良いな、と思っていました。その「付加価値」はどうしたら生まれるのかとずっと思っていました。

Q 最初から自転車タクシーを考えていたのですか？

細尾 ハノーバー万博の時に、このペロタクシーのシテイクルーザーが使われていて、とてもかっこいいということを知り、資料や情報を集めていたんです。形もカッコイイしカワイイし、しかもドイツ人に愛されている。これを京都でやることで、私たちが思っている事が達成できるんじゃないか、という希望がすごく出てきました。実際、ヨーロッパでは11カ国20都市でやっていて成功しています。京都で成功するかということを、専門家の意見を聞いたり、自分達で会議・討論を繰り返して検討し、その上で、自信を持った上で、自転車タクシーの導入

に踏み切ることになりました。

Q 自転車タクシーの目的はなんですか？

細尾 環境共生都市推進協会は「環境保護」、その中でも特に「CO2削減」という大きい課題をうたっています。でも、ペロタクシーを走らせる事によって、車やCO2が減ったなど、直接、効果が出ると思いません。ただ単にきつかけづくりが出来ればと思っています。



京都市の中心地烏丸御池。旧電電公社の建物を利用したおしゃれなファッションビル「新風館」の中庭にある「Velo Taxi」のステーション。



出発前の打ち合わせ風景。メンバーはドライバーさんも含めほとんどが20代。アルバイトはアルバイトニュースなどの広告で募集。

NPO法人環境共生都市推進協会事務局の細尾友子さん「若い人達は、デートの途中とかで抵抗無くトライして乗ってくれますし、遊園地の乗りもの感覚で小さいお子さんも乗ってくれます。また、年配の方々は暑い、しんどい、足痛い……などと便利に使ってくれますね」



細尾 環境保護活動というと、大学の先生とか専門家の方たちがデータを取ったり、文書を書いて提出したりと、市民には見えにくい動きがありますよね。それこそごく大事なんですけど、何か変わってあるんじゃないか、かっこいいじゃないか、というビジュアルから入るのもアリじゃないかなと思うんです。そういうところで若い人たちが来てくれると思うんですよね。でも、いざ乗ってみたら町の景色が違って見えるぞとか、ここにはこんな良いところがあったんだとか、前の車の排気ガスが嫌だとか、今の環境に気づいてくれる人が一人でも増えたらいいと思っています。

Q きっかけって何となくあるの？



運営や経費を考え、車体に企業広告シールを貼って宣伝をしながら走る。毎月協賛企業も変わり、シールも貼り替える。年内の協賛企業はほぼ埋まっているという。

Q 車体に企業広告を入れますが、この発想はどこから生まれたのですか

細尾 もともと発想、事業形態はドイツのものなんです。どれだけ長く続けてどれだけ長くアピールしていけるか。「継続」が一番大事なんです。運賃を引

細尾 ここ（新風館）自体が、名前の通り「新しい風の館」で、ここから新しい風を興していこうじゃないか、というのがコンセプトとしてあるんです。オープンスペースで、例えばお昼時など0Lの人たちがお弁当持ってきて食べたりされているんです。広く開放しておられるんです。そういうところと古い感じもちょっと残してある建物にも、私達に共感するところがあって、この場所に決めました。

Q この場所自体が若い人が集まる場所ですが、それも考えてされているわけですか？



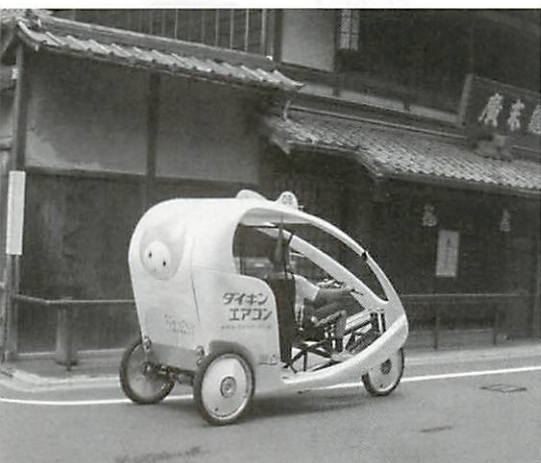
全部で10台あるVelo Taxi

料金：大人300円 小人200円
 ※2歳までの子どもは無料。
 2歳以上6歳未満の子どもは小人料金。
 運行時間：13時～17時
 連絡先：京都市中京区烏丸小路下ル場之町586-2
 新風館1F PinkTower
 電話075-241-7645 info@velotaxi.jp
 http://www.velotaxi.jp

き上げれば維持費を賄えるんですが、そうすると楽しい乗り物じゃなくなりますよね。でも、じゃあ経費をどうする？というところで企業さんに少し協力して頂いて、その代わりにこの車体にシールを貼って協賛してくださった企業さんの宣伝をしながら走る。お客さんには安い料金で乗ってもらって、企業さんも間接的ですが、環境保護活動に関与したことになる。今まで環境保護活動に全く関与しなかった企業さんも、それが最初の一歩となって目覚めてもらえたら嬉しいです。

Q お客さんの反応はどうでしょうか

細尾 大雑把なアンケートなんですけど、その中には「楽しい」とか「面白かった」というのがダントツに多いです。中には「エコロジー」という言葉も結構入っているんです。何かそういう風に見えてくれているというか、走っていることがそういうことなんだっていうのが、感じて



分かってもらっている気がしますね

Q これからめざすところは

細尾 現在、唯一の苦情でもあるんですが、「エリアが狭すぎるのもっと広げて！」という声が多いので、私達もエリア拡大を目指して行きたいですね。それと、この自転車タクシーが全国に広がることで、またその土地の発見があったり、きっかけ作りが出来たりとかできればとても嬉しいですね。日本ではまだまだヨーロッパに比べて自転車の扱いがそんなにいいで、どこを走っても良い＝無法状態ですよね。で、本来は楽しくて便利な乗り物なのに、歩行者にとっては危ないものになってしまったりとかするんです。「自転車の地位の確立」という意味でも拡がっていけばと思っています。

取材を終えて

「見た目から入る」。一見軽い感じがしますが、その裏では、「自分たちの活動や目指していることをいかにわかりやすく伝え、いかに多くの人に共感を持ってもらうか」「そのためにはどうすればよいか」を考えて法人を立ち上げたメンバーの熱意と活動に関する十分な調査・研究そして「事業の継続」を念頭においた堅実な運営がありました。

私たちががんばっています！

NPO

どういつふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

周囲の人たちの

必要に応える活動を

「どうしよう、困った。少しの間でいいから安心して子どもを預けられなにかしら。」子育て中の親なら誰もが経験したことのある苦労のひとつでしょう。「子育てサポートおうみはちまんすくすく」では、そんな仕事や急用で忙しい親のために一時的に子どもを預かってくれる人を紹介する「ファミリーサポートセンター」を運営しています。

援助を申し込む依頼会員と、援助を提供する援助会員で構成されていて、1時間700円で支援を受けることができます。支援を必要とする人には、子どもを緊急避難的に安心して預けられる上、子育てについて気軽に相談できる心強い存在のようで、支援する人にとっても子育てをサポートすることとその人の能力開発や生きがいとなっているのだそうです。

●NPO法人子育てサポートおうみはちまんすくすく



●会員同士の情報交換の場となっている交流会の風景。

全国に85ヶ所と広がるファミリーサポートセンターの中でも、NPO法人委託されているのはこの「すくすく」を含む5ヶ所のみで、行政とのパートナーシップ

プの先駆的な存在となっています。子どもを預ける上で重要な組織の信頼性もこのパートナーシップから生まれているようです。

「周囲に子育て支援を必要としている人がいたから」と、設立当時の想いを語ってくれたのは代表の伊藤さん。地域に密着した活動をしているのがこのすくすくの特徴で、さまざまな人から入る情報や意見を取り込み、反映させるファミリーサポートセンターの運

営はNPOだからできることなのかもしれません。

ファミリーサポートセンターの運営以外にも、商店街で宅老所を開いたり、講座や講演時の出張託児サービスを行ったりと活動は広がりを見せています。「子育てを支援するということは直接的な支援のほかにも、家庭のハンデイとなっている部分をサポートする事も大事。広い意味でファミリーサポートとなればいいですね」との声からは、子どもも活

動もすくすくと成長していく姿が目に見えかぶようです。

(編集ボランティア) 上岡 真美



●今年7月に開かれた地元商店街の「七夕まつり」に参加。活動拠点「すくすくの館」前でのフリーマーケット。



●代表の伊藤さん(右)と大西さん(左)

NPO法人子育てサポートおうみはちまんすくすく

代表●伊藤幸枝
連絡先●近江八幡市西元町59 すくすくの館内
電話●0748-31-3320
設立●2001年6月法人認証
会員●84名
URL●<http://www.hottv.ne.jp/sukusuku/>
E-mail●sukusuku@hottv.ne.jp

S P O T L I G H T

※ADHD＝注意欠陥多動性障害



●代表の櫻田さん(左)と発足人の武市さん(右)

ADHD支援グループ「クローバー」の発足は、テレビのADHD特集番組を観て、我が子の姿と重なり合っているのではと気づいた武市さんが、ADHDの情報を調べようとしたりと、その情報量の少なさに驚き、自分でホームページを立ち上げたことがきっかけとなります。

オンラインワンの個性が認め合える社会に

●ADHD支援グループ「クローバー」

できるネットワークを作ること、世の中に広くADHDについて正しく理解してもらおうことが、活動の主な目的です。

「ADHDの子どもたちというのは、集団生活の中では、はみ出してしまいがちなんです。一方ではとても直感力に優れ、自由な発想を持ち、自分の興味のあるものには時間を惜しまず没頭する素晴らしい能力を秘めているん

でもない。その狭間で、あまり気に留められない存在となっているのが現状で、疲れて、子育てに自信を失ったお母さんたちの心を支援で



ADHD支援グループ「クローバー」

代表 櫻田照子
設立：2001年5月
会員：30名（正会員）
連絡先：甲賀郡甲南町希望ヶ丘5-19-6
E-mail:teruko-sakurada@mte.biglobe.ne.jp
URL:http://www.biwa.ne.jp/~peko/adhd.h.htm

●毎月発行のクローバー通信



●昨年の夏に信楽山田牧場で子どもたちとレクリエーションを開く。

今後について、お二人は「母親の目線からの活動を大切にしながら、父親の参加を増やす」と、子どもたちには、「僕もみんなと同じ様にやれるんだ」という自信を積み重ね、ADHDである自分を認め、肯定できる、そんな機会を作ること。そして、早く、オンラインワンの個性を認め合える社会にしたいですね」と語ってくれました。

(編集ボランティア 石田 和子)

「ですよ」と代表の櫻田さんは語気を強めます。現在、月1回の定例会や、年1〜2回親子レクリエーション等を実施。これらの活動を通して、お母さんたちは、飛躍的な変化と自らの成長を実感しています。

●昔より水かさはグンと減ったが、柳川は今も子どもたちの良い遊び場だ。



近江神宮の南を流れ柳が崎でびわ湖に注ぐ柳川を20年にわたって見守り続けてきたのが「柳川を愛する会」の中原真二会長である。この会の発足は84年7月。当時、ゴミ

川づくりを

清掃美化を通して「子どもが魚しかみのできる」

や古タイヤ、自転車までが捨てられ、川は汚れていた。そこで、まずは川の清掃美化から始めようということになったのが活動のきっかけだという。現在、年に6回、川を美しくする活動を続けている。近隣の自治会からも参加の音が聞かれ、清掃・草刈りから花づくり、子どもが魚つかみのできる川づくりへと活動の範囲が広がっている。美化啓発のひと役にと、手作りの看板も設置した。昨年、会が行った柳川の生きもの調査、水質テストではアユ・サワガニ・タテボシなどの魚貝やトンボのヤゴなどの水生昆虫のほか、幾種類もの水生植物が採集された。こうした地道な活動が認められ、2000年には第11回全国「みどりの愛護のつどい」開催に際して建設大臣感謝状

●川を大切にすることを語る、代表の中原さん。



を、今年6月には大津市長から「親子のまちづくりコンクール」銀賞の榮譽を受けた。

中原さんの夢は「この会を川を美しくする会にとどまらず、子どもが遊べる川づくり、親子が一緒に遊べる川づくり、親と子が一緒に遊べる川づくりの場にしたい」こと。この思いから「おおつ環境フォーラム」の「子どもが遊べる川づくり」プロジェクトのリーダーも務めている。「大津の川がみんな美しくなるように柳川が一つのモデルになれば」。川づくりへの情熱はますます燃えるばかりである。

柳川を愛する会

代表●中原真二
連絡先●大津市二本松4-13
TEL&FAX●077-524-6351
設立●1984年
会員●35名

●柳川を愛する会

わくわく市民活動ゼミナール2002第4弾

「ワークショップ-新しい学びと創造の場」

講師：中野民夫さん
 (博報堂勤務、ピーネイチャースクール講師)
 日時：10月26日(土) 13:30~17:00
 場所：県立男女共同企画センター

わくわく市民活動ゼミナール2002第5弾

「NPOのためのリスクマネジメント」

～リスクと上手につきあうには…～

講師：宇田川ともひろさん
 ((社)日本損害保険協会 生活サービス部NPOグループ)
 日時：11月8日(金) 19:00~21:00
 場所：ピアザ淡海207会議室
 ※詳しくはセンターまでお問い合わせ下さい

おでかけ湖岸通り77番地 ～inピアザ淡海～

FM滋賀「おでかけ湖岸通り77番地」の公開放送が淡海ネットワークセンターで行われます。ぜひお越し下さい。

9月27日(金) 7時30分～15時

第4回おうみ市民活動屋台村

～友遊体験～

今年もおうみ市民活動屋台村を開催します。当日は、まちづくり、環境、福祉、国際交流、芸術文化などさまざまな市民団体・NPOが実施する交流会・展示・発表会などの催しがあります。また、29日にはフリーマーケットも開催します。みなさんぜひお越しください。

日時：9月28日(土)、29日(日)
 両日10時～17時
 場所：ピアザ淡海県民交流センター
 および大津湖岸なぎさ公園「打出の森」

●お詫びと訂正●

おうみネット30号5頁「私たちががんばっています！NPO」でとりあげた「子どもの美術教育をサポートする会」代表津屋祐子さんのお名前は正しくは「津屋裕子」さんでした。また、写真キャプション中「陶芸家と呼んでの授業風景(草津市立老上小学校)」とあるのは正しくは(草津小学校)の誤りでした。お詫びいたしますとともに訂正をお願いいたします。

編集後記



みなさんが
 元気に活躍する
 活き活きと活躍する
 元気な滋賀の実現を

淡海ネットワークセンターには「おうみ未来塾」第三期生として関わる中、本年4月から事務局入りしました。見習いになったわけですが、利用者の目を見たセンターの姿に留意しながら、県民やNPOの皆さんが活き活きと活躍する元気な滋賀の実現に努めたいと思います。



事務局長
川尻 良治

Voice ボ・イ・ス

「車が500台集まるより人が500人いるほうが楽しいじゃないですか」と話されるスタッフの方のお話を伺っていると、熱意とともに今の活動を楽しんでおられる様子が伝わってきます。最近各地でユニークな試みがなされていますが、自分が普段歩いている街でこのような試みが行われると結構新鮮に感じるものです。街行く人の興味深そうな反応を見ていると「環境保護の難しい理屈はさておき、まずは見かけから入ってみるのも一つの方法では」というスタッフ側の思惑は成功しているのではないかと思います。スタッフの方は「利用者の中から少しでもメッセージに共感してくれる人が出てくれればうれしい」と仰っておられましたが、実際に試乗してみると乗り心地もよく、普段の街並みの中に埋もれた風景に気がつくとともに、通りを走る車の多さに気がつきます。地球環境を考えるきっかけとしてこの事業は多いに役割を果たしているのではないのでしょうか。

地球環境を考えるきっかけに

運営面では、事業を続けていくにあたって運営の仕組みにポイントとなる点が見られます。寄付を集めるのに苦労するNPOが多い中、この事業では注目を集めることによる広告効果に着目し、企業からの寄付のお礼として自転車タクシーの車体に広告スペースを提供することによって寄付を集めやすくしています。苦戦する資金集めをそつなくこなしているあたりは感心すると同時にどこか頼もしくさえ感じました。また、ドライバーにボランティアスタッフを起用するのではなく、アルバイトを募集して採用している点もポイントだと思います。事業運営のすべてを仲間内のボランティアのみで行うのではなく、外部の人材を採用することで風通しのよい団体でいられるのでしょう。それが結果的に事業の質を高めることにも繋がっているのではないのでしょうか。あくまでも乗り物としてのクオリティを追求する姿勢が成功を導いているのかもしれない。(編集ボランティア 江上淳史)

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

■TEL 520-0801 大津市におの浜1-1-20
 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
 ■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
 ■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29~1/3を除く)
 火~金曜日/9:00~19:00 土・日曜日、祝日/9:00~17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
 ・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同企画センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社福協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。